

岩手県知事杯OROカップ

OP・芝1700m M1

8月24日（日）盛岡競馬場

前回の優勝馬・アトミックフォース



（株）優駿協賛

第26回 岩手県知事杯OROカップ（M1） （ジュンライトボルト賞）

盛岡競馬場／3歳以上OP・地方競馬全国交流・芝1700m

8月24日（日）第10競走 17：30発走

ORO、OROパーク盛岡競馬場と同じく『黄金』の意味のOROをレース名にいただくこのレースは1999年に芝2400mの重賞として創設。第3回は芝1700mに短縮され、一方で第4回から東日本交流、2003年の第5回からは地方全国交流と交流範囲を拡大してきました。第9回以降は9月下旬に行われる芝シーズン後半の総決算的な位置に定着、前半のせきれい賞とあわせてこの二戦を転戦する馬も少なくありませんでした。昨年は天候不良のためレースが取り止めになったために2年ぶりのレース実施となります。

■スズカゴウケツ(牡8 水沢・千葉幸喜厩舎)



岩手で芝に挑むのはこれが4度目。JRA時代には平地で芝出走の経験がなかったが岩手では機会を求めて芝にも挑戦。結果としては前走の5着が芝では最高着順とはいえ、例えば岩手転入2戦目に挑んだ22年の岩手県知事杯OROカップにしても本馬より上位に来たのはJRA時代に芝重賞で勝ち負けレベルだったような馬、それを思えば本馬も十分に健闘しているしひけは取っていないと言いたいところだ。このレース4年連続出走のキャリアはメンバー中最多。過去最高着順、いやそれ以上を狙う。

「ここには良い状態で挑めます。芝自体はこなせることが分かっていますし、1枠という条件を活かしきって戦えれば。（千葉幸喜調教師）

■リュウノアン(牝6 浦和・野口寛仁厩舎)



昨年のビューチフルドリーマーカップで久しぶりの“里帰り出走”を果たした本馬だが、盛岡の芝で勝ち星を持っている事を覚えているファンもいるだろう。JRA未勝利から岩手に転じた22年、ダートで4勝を挙げたのちにキャリアで初めて挑んだ芝のはまなす賞を逃げ切り勝ち。9月のはまぎく賞でも僅差の4着を確保して盛岡芝の適性が十分に高い事を示していた。その芝経験に加えて直近3戦で2勝と好調サイクルに入った点が掛け合わせれば、より大きな好結果が生まれてくるかも。

「2月に復帰したあとしばらく何か噛み合わなかったのですが。ここに来てレースぶりが非常に良化。勝って自信をつけた感じもありますね。芝で勝っている経験にも期待しての遠征です。（野口寛仁調教師）」

■シャイニーロック(牡9 水沢・佐々木由則厩舎)



今年春の岩手転入時はC2級スタート。その初戦を快勝しての次戦は850mに苦戦したものの、そこからはC1級、B2級と最短距離で突破して前走・いしがきマイルズではついに重賞制覇を果たした。9歳夏の戴冠。今年前半の岩手の“出世頭”はこの馬だ。しかしながらJRA時代には芝でオープンまで勝ち上がっており23年読売マイルズカップでは11番人気から僅差4着の走りを見せてもいたのだから“芝の舞台で本来の力を発揮している”と表現するのが正しいのだろう。前走で勝利に導いた鞍上と共に二つ目のタイトルへ。

「年齢も考慮して間隔を詰めないようにレースを選んできた。おかげで暑さにも負けず順調にきています。距離も苦にしないでしょう。良馬場でやりたいですね。（佐々木由則調教師）」

■ペルマナント(牡6 大井・高野毅厩舎)



JRA時代には未勝利戦で芝に4度挑んだものの9着が最高。ダートに転じてからは反対にほとんど掲示板を外していない戦績だけに現状の適性はやはりダート、久しぶりの芝はチャレンジということになる。しかし芝での活躍馬も決して少なくないロジータの母系に父キズナはダートだけでなく芝も意識したものだ。2月の報知オールスターカップ11着後にひと息入れてのここ2戦はしっかり上昇ムードにある点にも注目。

「レースに向けて馬の集中力が出てきたのか追い切りからゾーンに入っていた。これまでのこの馬とはひと味違うのでは。鞍上もこの馬の力を引き出してくれると期待しています。（高野毅調教師）」

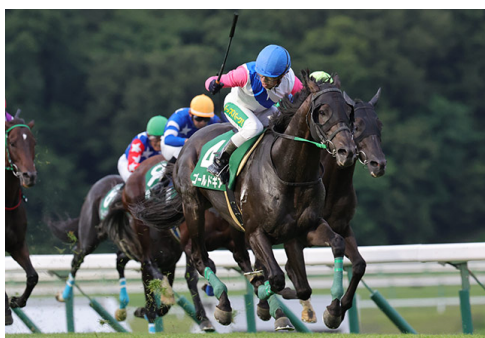
■ソロフリーズ(牡10 盛岡・齋藤雄一厩舎)



今年10歳。この馬も岩手の芝で長く活躍してきた。本格的に岩手で稼働し始めた22年には芝の重賞・準重賞を3勝、JBCの日併せて行われたこの年の岩手県知事杯OROカップでも5着に健闘した。ここまで盛岡芝での重賞・準重賞出走は延べ12回。本馬にとってやや距離が長いせきれい賞では4着が最高だが1700m以下なら掲示板を外さずに来ているのだからやはり芝巧者なのだ。そんな本馬のキャリアもそろそろ最終章。芝の舞台上で走る姿を見るのもこれが最後の機会かも。その走りをしっかり見届けたい。

「やはり年齢的には以前の力は・・・というのが現状でしょうが芝では良い走りをしてくれる馬。長く走ってくれましたしまずは無事に戦ってきてほしい。(齋藤雄一調教師)」

■ゴールドギア(牡10 水沢・伊藤和忍厩舎)



「勝てる力がありますよ。ほんのちょっとの差なんです」。一昨年のせきれい賞2着、岩手県知事杯OROカップ3着。遠征勢を向こうに回して互角に戦いはしたものの僅かに勝てなかった本馬だったが高橋悠里騎手の高い評価は揺るがなかった事を覚えている。6月の笠松戦、実は本馬としては初めて挙げたダートでの勝ち星でスイッチが入ったか岩手に戻ってきた前走・せきれい賞で念願の芝重賞初制覇。10歳夏にして意気軒昂。昨年までの“忘れ物”をまとめて取り返すチャンスが巡ってきた。

「中間も夏負けせずに順調に来てくれています。前走で10歳馬とは思えない走りを見せてくれましたし、ここでも期待しています。(伊藤和忍調教師)」

■ヴィゴレー(牡7 大井・高野毅厩舎)



一昨年のせきれい賞ではゴールドギアを3/4馬身差で退けて優勝。本馬にとってはそれが久しぶりの芝での戦いだったが、JRA時代にはクラシック路線にこそ乗れなかったもののあと一歩に迫っていただけのことはある、そんな芝適性の高さを感じる勝利だった。昨年も盛岡の芝戦線に挑もうとしていた本馬だったがダート変更でそれを果たせず、今回はちょうど2年ぶりの芝での戦いになる。本馬にとっても芝でのタイトルは昨年手にしそびれた忘れ物。当然、それを手にするためにやってきたのだと考えたい。

「休養から帰ってきてから細かい調整を続けた甲斐があってフォームやトモの踏ん張りが良くなっています。7歳ですが馬体の張りや若々しさも健在だと感じますね。(高野毅調教師)」

■ギャレット(牡6 水沢・佐藤浩一厩舎)



岩手デビューの本馬だが初勝利は芝重賞の若鮎賞。ここまで挙げている7勝のうち4勝が盛岡芝でのものという、岩手にしか生まれ得ない“地方の芝の申し子”がこの馬だ。昨年も、昨季最後の芝重賞になったいしがきマイルズを制したし前走のせきれい賞でも僅差3着、そんな芝巧者ぶりに衰えはない。大幅馬体減から始まった今季はそこからの復調にちょっと時間を要したが、前走・前々走と得意の芝という好条件もあって急速な立ち直りをみせている。ここまでの再戦になる相手関係だが、今の勢いなら差はもっと縮まってい。

「春先に無理をしなかったことでここに来て調教で前向き、レース内容も良くなっています。暑さの影響が計れないからあまり強くは言えないものの調子は上がっていると感じますよ（佐藤浩一調教師）」

■マンダリンヒーロー(牡5 大井・藤田輝信厩舎)



いよいよ芝で戦う彼の姿を見る事ができそうだ。一度芝も使ってみたい、その時は盛岡で…とは3歳の頃から藤田調教師が描いていたプラン。昨年それが実現するかと思われたのだが無念のダート変更にくわえてレース取り止めにも遭ってしまった。しかし、ダービーグランプリでのミックファイアとの激闘は今でも記憶から薄れないし、しばらく勝ち星から遠ざかっている彼であってもその力が衰えたとは思えない。2年越しの念願の舞台で新たな姿を見せる。

「一週前の追い切りが凄く良かったですし最終追い切りも良い感じで終えることができました。数字以上に上積みがありそうです。（藤田輝信調教師）」

■グレートキャンベラ(牡6 盛岡・橘友和厩舎)



一昨年の5月の転入初戦は大差圧勝。連勝街道を駆け続けることこそ願い叶わなかったが、1年ほどでC2級からA級までたどり着いたのだから本馬の能力は並みのものではないと考えていい。A級で戦った昨年は苦戦が目立ったが、昨冬以来の休み明けで挑んだいしがきマイルズ、久しぶりの芝で2着を確保したのは新たな手がかりになったのではないかな。続いて芝に挑んだ前走も着順こそ8着だったが最後の直線の攻防まで先行集団に食い下がっていた。距離短縮でいわゆる叩き三戦目、とすればここは二走前の姿を重ねてみるのが自然。

「前走は結果的には休み明け二戦目の反動があったのかも。調教の内容は上向いていて前々走くらいのデキで挑めそう。少し力のいる馬場ならなお良いですね。（橘友和調教師）」

■マチカゼ(牡5 水沢・伊藤和忍厩舎)



JRA時代には芝2勝クラス。地方に転じた今年は大井・門別のダートで7戦しているが最高着順は6着まで。これが転入初戦でもあり…となると評価に悩むのが正直な所だ。

手がかりを探してみるとすればやはり洋芝経験になるだろう。JRA時代の終盤に走った札幌芝では着順は4着・12着だがタイム差でみると0.4秒・0.6秒と苦手感のない結果を残している。洋芝を使う盛岡芝ではJRAの札幌や函館の、洋芝コースでみせる成績や適性が重要になるのは昔からの常識。そこを今回の武器と考えてみたい。

「旧地ではもうひとつの結果だったようですがこちらでの調教の感じだと動きは悪くないし反応も良い馬。芝で何か変わってくれるかと思っています。（伊藤和忍調教師）」

■タイセイモンスター(牡8 水沢・佐藤雅彦厩舎)



この夏に岩手に移籍してからの3戦は芝をチョイス。いずれも勝ち馬から1秒以内に踏みとどまっており適性は十分と見ていいのは確かで、あとはもうひと押しの壁を超えることができるか？が課題になる。ただ、JRA時代も芝で4勝を挙げている一方で僅差の2着や3着も少なくない、いわゆる“勝っても負けても僅差”なタイプという印象もある。ここ3戦は上がり3ハロンのタイムでは上位に入ってきており、とすれば展開ひとつ、何か少し流れが向けば結果一変…の可能性も十分にありそうだ。

「芝自体は悪くないのですが盛岡だと直線が短すぎるのかもしれないですね。それをカバーしてくれる、何か展開の助けがあれば。（佐藤雅彦調教師）」